

視点

准看護師養成問題



福島県医師会副会長

関 元 行

この度、医師会立准看護師養成所の定員割れが続くことにより准看護師養成所の存続が危ぶまれている状況下にあることから、将来の地域医療にとってかけがえのない担い手としての准看護師養成について考えてみたい。私事ですが、小職白河医師会准看護学院の講師を35年続け、目下再度学院長を拝命しています。

1996年、厚生省「准看護婦問題調査検討会報告書」において、21世紀の初頭の早い段階をめどに看護婦制度の統合に努めると提言されました。日本看護協会ホームページには「現在の医療ニーズの増大や地域包括ケアの推進を考えると、准看護師養成は教育内容、時間とともに現在求められる看護職の役割を果たすのには不足」と述べ「准看護師養成の停止を目指し准看護師養成所から看護師養成所への転換を促進するとともに現在活動している准看護師の資質向上、進学支援に取り組む」と記しています。これに対して日本医師会は准看護師養成を継続するとしていて、「地

域医師会は地域の医療体制を守るため、自ら助産師、看護師、准看護師養成所を運営し、地域医療を支える質の高い看護職員の養成に取り組んでいる」と記し、日本医師会、地域の医師会はこれからも地域医療を守るため看護師、准看護師養成・確保に取り組むとの姿勢を示しています。平成30年度は平成25年に比し准看護師の応募者数は半減し、入学者も大きく減少し約7,000人を割っていることを報告。黒岩祐治神奈川県知事は知事就任後、神奈川県内の准看護師養成所への補助制度を廃止。既に3ヶ所の准看護師養成所が廃止となっています。

この様な状況下、2017年11月、「一般社団法人日本准看護師連絡協議会」（以後 准看護協と表記）が設立されました。平成29年4月現在の准看護師養成所、高校は231校（平成20年との比較で43校減少）、准看護師就業者数347,675人（平成20年との比較で36,597人減）が示されていますが、2021年までの閉校

予定2校をふくめて18校が閉校と報告。

会員募集には

- 准看護師の役割拡大と社会的地位の向上
- 准看護師のスキルアップ
- 地域医療を支える質の高い准看護師の育成
- 准看護師の再就職・進学の支援
- これからの准看護師を目指す人への支援が謳われていて、会員拡大を計っています。

人口減少に関して昨年度の福島県教育庁の発表に依ると、県内の中学卒業生数は平成40年度には平成30年度に比し5,300人減少。これにより高校では毎年10クラス、10年間で100クラスが減ることになると報告。平成31年2月9日地方紙は「県立高校25校13校に再編」を一面トップで報道。

如上の時代背景もあり県内の医師会立准看護師養成所は軒並み定員割れが生じており、日本医師会が示す様な擦配には進められない状況にあります。入学生の減少は経営面で医師会費からの拠出金超過となり運営そのものが成り立ちません。

高卒、大卒の就職戦線が売り市場の活況を呈していて、いい企業に人が集まる流れにありしばらくはこの流れが続くものと推察されます。新卒の准看護応募者が望めないとは言え、この10数年の傾向として、すでに社会生活を経験した方たちの入学が増え、現役生徒数を上回るまでになっており、成績優秀でもあります。地方自治体の支援もあり一人親に対する支援事業の恩恵を受け修学、卒業という学生も出ています。現在の准看護師制度は戦後間もなく制定されたもので、当初の社会的背景から、准看護師資格取得に関わる修学年限は9年であり、諸外国の12年と差があります。一時違和感をおぼえたこともあります。社会人枠が増して来ると幅広く人材を集めるという観点からも許容出来るのではとも

考えます。

准看護師養成所に入学を希望し、資格取得の後医療に就職したいという志があった人材は確実に居るのです。現に修学中の生徒、あるいは既卒者にとって、准看護師養成所があればこそ、進学の道も開け新たな自らの進路の出発点となっています。後に続く人たちにとっても、掛け替えのない学び舎が存続することを望んでいます。

医師会の活動のひとつに、医師会は地域の町づくりの中核にあり重要な役割を担うことを望まれています。地域医療にとって准看護師の役割は欠くことの出来ない存在であることを、お認めになっておられる会員は少ないものと推察致します。

卒後即戦力となるためには在宅医療における喀痰吸引等の技術修得の臨地実習の場がないことも、これから解決しなくてはならない課題のひとつと考えます。過去の卒業生の中には進学組が多く、地元に残らないという事情も運営継続の可否を問う場合に問題とされますが、自ら准看護師独自の職務を全うし地元で仕事を続ける卒業生も少なくありません。卒業生の中には、医療機関のみならず、介護、保育所、幼稚園、保健センター保健師、児童クラブ勤務等々と多様な現場で職能を發揮、活躍しています。地域にとってかけがえない人材です。余談ですが、刑務所、自衛隊の看護職も准看護師が担っていると聞き及びます。

医師会が背負って来た准看護師養成の向後の方向性については、地元で育ち地元で仕事の出来る人材育成であるとの視点から、医師会単独ではなく、地域（広域圏もふくむ）の行政と一体になって人づくりを分担して進めて行く道も開かれてもいいのではないのでしょうか。公立双葉准看護学院は、その雛型。

亦、県内での准看護師、看護師養成所との連携の下、看護職の養成・確保に繋いで行けないのでしょうか。長いこと准看と関わって来て感じていることがあります。地元医師会の会員の先生方が、お忙しい診療の合間の貴重な時間を割かれ、学生と一緒に学びながら地域医療についても語り合ってくださいし、また生徒も地域を支える側であると同時に、地域に、患者さんに支えられ、育てられていることを体得して巣立って行く姿には、小春日和に血液のあたたまるおもいがして、ある感慨をおぼえます。

生徒が育つには実習病院も不可欠です。日常の多忙な診療の中、臨地実習の場を提供して下さっている関係者の御腐心も、さぞやと拝察致します。感謝申し上げます。

将来がどの様なものになるか測り様ありません。社会のめまぐるしい変容に対して如何に柔軟に対応し得るのか。海水の浮力の様なものを信じて進んで来ました。それにはそれ相応の努力も求められます。

会員の皆様の叡智を仰ぎたく存じます。
(文中・は著者による)

